

社会福祉法人グリーンローズ

「ことば」の教室
オリブ園
インクル

暮れ 作文受賞



早いものです。 グリーンローズ理事長 後藤 進

もうすぐ暮れです。師走というように忙しい時期となります。ついこの間正月を迎えたと思ったばかりです。よい年でありますように、と願いながら、世界は必ずしもよいことだけではありません。それでも、来年はよい年でありますようにと祈らざるを得ません。オリブ園卒園生のすてきな作文は、私たちに元気を与えてくれます。ぜひ読んでみて下さい。この作文は、「第34回全国中学生人権作文コンテスト」秋田県大会の支部審査、秋田協議会入賞です。すばらしいですね。

障がいと剣道 中学三年 渡邊 美穂

私は剣道をやっている。でも他の剣道をやっている人達と違うところがある。私は耳が聞こえにくいのだ。私が剣道を始めたのは小学校一年生のときだ。姉がそのときやっていたので、姉のようになりたいと思ったのがきっかけだ。最初のうちはすり足の練習や素振りなどの基本が中心だったため、何とも思わなかった。ところが初めて補聴器を外して面をつけたとき、小さな不安を感じた。先生や友だちの言っていることが全く聞こえない。一人だけ闇に放り出されたような気分だった。もう剣道は嫌だとやめたくなったときもあった。中学校にあがっても障がいのことでの仲間との衝突や自分の剣道が思うようにできなくて、悩んでいたこともあった。また、小学校六年生のときに強化選手に選ばれたときは、さらに大きな不安を感じた。みんな、自分の耳が聞こえにくいということを理解してくれるのだろうか。周りは見知らぬ人達ばかりで最初はとまどいもあった。でも、練習会や遠征のたびに少しずつだが、私は耳が聞こえにくいからこうしてほしいんだということを知ってもらえた。今ではみんなが分かりやすく、ゆっくり丁寧に話してくれる。それだけでもうれしかった。自分でも行動すれば、たとえ障がいという壁があっても剣道を通じて乗り越えられる。障がいを通じていろいろな人達と知り合えた。

私は本気で剣道が好きだ。耳が聞こえにくいということは周りの音が入ってこない。だから試合中は他の人達よりも集中できるとポジティブに考えることができた。耳が聞こえにくくたって声は出る。体も動く。自分の剣道が私の中にある。

そう感じる事ができたのは周りの人達の支えがあるからだと思っている。先生の言ったことを仲間が必死に伝えてくれる。先生との稽古の時もジェスチャーなどを使って伝わるまで伝えてくれる。一つ一つの支えが大きな支えとなっていくのを私は感じた。

私は支えられてばかりだ。支えてくれた人達に恩返しをしたい。そう思い、最後の大会で結果を残すと決意した。そのためには、郡市・全県大会で勝ち抜いていかなければならない。私は必死に練習に取り組んだ。その成果が出て、郡市大会の個人戦で優勝、全県大会で三位入賞を果たした。東北大会への切符を手に入れた私は先生とたくさん稽古した。部活がない日でもスポ少で練習するなどほぼ毎日練習を欠かさなかった。たくさんの人達に支えられて迎えた東北大会。これが最後だ。最後だからこそ楽しく試合をして、支えてくれた人達に恩返しをしたい。その気持を胸に抱き、試合に臨んだ。相手は強い人達ばかりだった。でも、個人戦で三位入賞をすることができた。周りの人たちも一緒に喜んでくれた。私はやっと恩返しができるなと思った。

これから先、剣道を続けていく中でいろいろな人達と関わるだろう。不安を感じるかもしれない。でも、耳が聞こえにくくたって剣道ができるんだと忘れないでいたい。この先も障がいから逃げずに向き合っていこう。

胸をはって自分らしく生きていこう。



裏面もありますよ！

何かありましたら誰にでも連絡・相談

E-mail olive@kodomo-sekai.com
ホームページ http://www.kodomo-sekai.jp